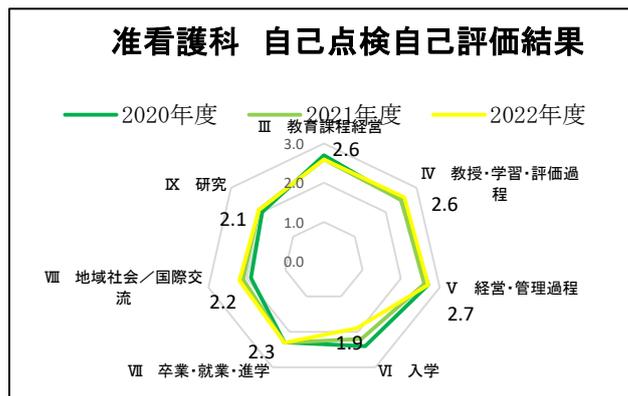


# 2020・2021・2022年度 自己点検自己評価結果 准看護科

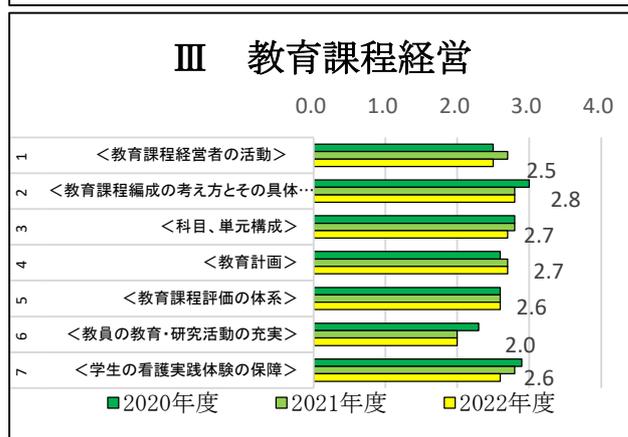
〈評価基準〉 3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

	2020年度	2021年度	2022年度
III 教育課程経営	2.7	2.6	2.6
IV 教授・学習・評価過程	2.5	2.5	2.6
V 経営・管理過程	2.7	2.6	2.7
VI 入学	2.4	2.2	1.9
VII 卒業・就業・進学	2.3	2.3	2.3
VIII 地域社会／国際交流	1.9	2.1	2.2
IX 研究	2.0	2.1	2.1



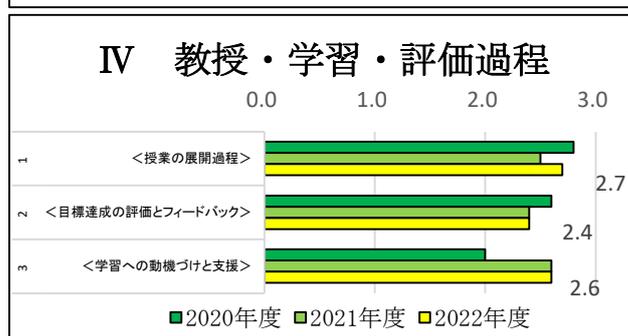
### III 教育課程経営

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.5	2.7	2.5
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	3.0	2.8	2.8
3 <科目、単元構成>	2.8	2.8	2.7
4 <教育計画>	2.6	2.7	2.7
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.6	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.3	2.0	2.0
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.9	2.8	2.6
平均	2.7	2.6	2.6



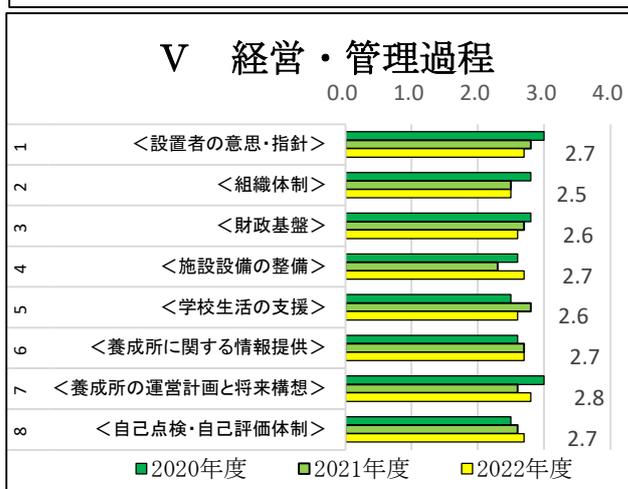
### IV 教授・学習・評価過程

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <授業の展開過程>	2.8	2.5	2.7
2 <目標達成の評価とフィードバック>	2.6	2.4	2.4
3 <学習への動機づけと支援>	2.0	2.6	2.6
平均	2.5	2.5	2.6



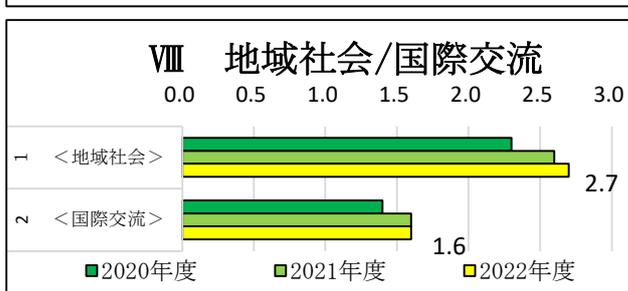
### V 経営・管理過程

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <設置者の意思・指針>	3.0	2.8	2.7
2 <組織体制>	2.8	2.5	2.5
3 <財政基盤>	2.8	2.7	2.6
4 <施設設備の整備>	2.6	2.3	2.7
5 <学校生活の支援>	2.5	2.8	2.6
6 <養成所に関する情報提供>	2.6	2.7	2.7
7 <養成所の運営計画と将来構想>	3.0	2.6	2.8
8 <自己点検・自己評価体制>	2.5	2.6	2.7
平均	2.7	2.6	2.7



### VIII 地域社会／国際交流

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <地域社会>	2.3	2.6	2.7
2 <国際交流>	1.4	1.6	1.6
平均	1.9	2.1	2.2



## 2022年度 重点課題に対する評価 准看護科

### 1. 学生定員の充足を図り、教育財源の確保と教育環境を充実させる。

- ①学校訪問を再開し、本校の強みを最大限にアピールする。
- ②学生定員の8割を満たすことができる。
- ③教職員が連携を図りながら、各役割や担当における教育活動を行い、問題解決や円滑な学校生活に取り組む。

①～③に対する教員の評価は、4段階評価で①3.0 ②1.6 ③2.6であり、重点課題1としての評価は2.4であった。2022年は学校訪問を再開し、オープンキャンパスを対面で行い、意識して本校の強みをアピールできたと考える。しかし、近郊の大学新設や18歳人口の減少、景気回復による就職機会の高まりなどで、オープンキャンパスへの参加者数や受験者数は増えず、2023年度の新入生が19名と過去最少人数であった。このような状況から教員評価が1.6と低かった。福岡県内の准看護師養成所の状況を踏まえると、定員割れの学校がほとんどで、半数を満たしていない学校も多く、本校に限ったことではないと分かった。また教育活動に関しては、新カリキュラムと旧カリキュラムの学生が混在する年度であったため、混乱しないように、非常勤講師への対応や臨地実習の指導体制など教職員が連携を図ったことで大きな問題はなかった。教育財源となる学生定員の充足を図ることができないと、教育環境を充実させることもできなくなるため、教職員が更なる連携を図りながら、より良い教育活動を目指して学生の円滑な学校生活を支援していきたいと考える。

### 2. 新カリキュラムによる教育活動への取り組みを行い、運用上の問題点や課題を共有しながら次年度へ向けた修正・改善に取り組む。

- ①各役割・担当別に新カリキュラムの運用に際しての問題点や課題を発起し、教職員で情報共有を行う。
- ②次年度に向けた修正・改善策を検討し、取り組む。

①に対する教員の評価は4段階評価で2.8、②は3.0であり、重点課題2としての評価は2.8であった。新カリキュラムでの教育活動における役割や担当を通して、各教員が感じた問題点や課題を会議で共有しながら、次年度への改善点として取り組んだ。その内容として、1・2年生の同時期における臨地実習では一部の教員に負担が大きかったため、次年度は時期を見直し重ならないように実習を計画した。また授業評価の管理方法として、学籍ソフトの改良や業務分担の見直しを行った。

その他、次年度に向けて更なるICT教育の推進が必要と考え、教職員を対象としたDX (Digital transformation) の導入に関する学習会を開催した。今後ますますICT教育に関する知識や技術が必要になってくると思われるため、この分野に関する取り組みは重要と考える。

### 3. 新型コロナウイルス感染症対策の継続。

- ①体調管理の継続と感染対策行動の徹底（手指消毒、換気、密を避ける行動）
- ②感染症発生の場合の速やかな対応（情報収集、マニュアルの見直し）

①②ともに教員の評価は4段階評価で3.4であり、重点課題3としての評価は3.6と高かった。感染症対策の取り組みは、2021年度から継続してきた重点課題であり、学生と教職員の感染対策行動が身についたことや、状況に応じてマニュアルを見直し、教職員の共通理解ができていたため対応の徹底ができたと考える。2023年5月より、新型コロナウイルスの感染症分類が5類へ変更になったことでマニュアルを廃止した。しかし、医療従事者として感染対策行動は継続していく。

### 4. 福岡県准看護師試験全員合格の継続と進学率70%を目指す。

- ①チューター制による、個々の学生への学習支援
- ②進学者のうち、本校看護科への進学率90%を目指す。

①に対する教員の評価は4段階評価で2.6 ②は2.8であり、重点課題4の評価は3.8であった。2022年度は旧カリキュラムの2年生と新カリキュラムの1年生への対応となり、煩雑な業務に追われることが多く、教員の振り返りでは「一人ひとり個々を尊重した指導には時間を要し、力不足があった」などの意見があり、教員の自己評価は低かったと感じた。しかし、学生のアンケートから「ここまで成長できたのは、先生のおかげ」や「その都度見放すことなく指導して頂いた」「最後まで見捨てず寄り添ってくれた先生のおかげ」などの意見があり、学生の評価は良かった。

福岡県准看護師試験の全員合格を13年連続して達成できたことや、全体の進学率が90%であったことから目標は達成できたと言える。本校看護科への進学率が85.2%で、目標の90%に届かなかったが今後も高い進学率を目指していきたい。

## 2023 年度重点課題 准看護科

1. 看護に対する興味関心を持たせ、中途退学者の減少を目指す
  - ①看護の魅力が伝わるような授業教材の工夫
  - ②教育力を高めるための情報収集（書籍や研修会）
  - ③成功体験を積み上げることが出来る関り
  - ④学生が求める支援に繋げるために、教員間の学生に関する情報の共有を行う
2. 健全な学校運営のための学生定員の充足
  - ①学生定員の7割を満たす
  - ②学校訪問やオープンキャンパスで、本校の強み（准看護師試験13年連続100%、看護科を持っており、進学しやすい等）を最大限にアピール
3. 働き方改革の実現
  - ①業務の効率化や均等化を図るために、職員それぞれが声を掛け合い協力し合う。
  - ②一人ひとりが活動と休息のバランスを心掛ける。